

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第 85 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 85 回 : 2018 年 5 月 11 日 (金) 13:30~16:30

2. 場所 関西電力東京支社 第一会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 佐藤 (吉), 牟田, 岡野, 石田, 岩谷,  
喜多, 田中, 小谷, 佐藤 (輝), 黒岩, 谷口 (14 名)

(常時参加者) 濱口, 野村, 佐竹, 友澤, 池田 (5 名)

(傍聴者) 佐藤 (遼) (1 名)

(敬称略)

4. 配布資料

P4SC-85-1 第 84 回 L1PRA 分科会議事録 (案)

P4SC-85-2 人事について

P4SC-85-3-1 内の事象 L1PRA 標準 議論検討用

P4SC-85-3-2 適用可能な手順及び実施例 議論検討用

P4SC-85-3-3 内の事象 L1PRA 標準 英文版 (Draft for Review)

P4SC-85-4 停止時 PRA 標準改定案の公衆審査等への対応について

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 14 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。  
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 84 回議事録の確認

資料 P4SC-85-1 を用いて第 84 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いた  
だくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 人事について

資料 P4SC-85-2 により, 丹野常時参加者 (テプコシステムズ) の登録解除が報告され, 三  
浦常時参加者 (テプコシステムズ) の登録が承認された。

#### (4) 停止時 PRA 標準の改定状況

資料 P4SC-85-4 により、停止時 PRA 標準の改定状況について説明があり、公衆審査において意見投票なく終了したことが報告された。また、誤字・脱字等に関して「誤記チェックの視点」における各項目が既に検討されていることを確認した。

残件であった解説 7 の事故シナリオの展開を説明している部分については、安全機能等を説明している他の箇所とは趣旨が異なるため現状どおりとし、関連して次の文章について、機能の意として用語の整合をとり、幾つかの機能例を示していることから等を追記することとした。以上の確認・修正をまとめて、リスク専門部会に報告することとなった。

「ORAM では、崩壊熱除去、インベントリ制御、電源 供給、反応度制御及び格納機能等の安全機能の充足度を SSFAT (Shutdown Safety Function Assessment Trees) と呼ばれるロジックツリーを用いて評価する。」

#### (5) L1PRA 標準統合性能化検討

資料 P4SC-85-3-1 から資料 P4SC-85-3-3 により、L1PRA 標準統合性能化の箇条構成について検討を行なった。前回議論の反映を確認し、主な議論は以下のとおり。

##### ・全般

- －用語として「手法」「方法」が用いられているが、これに相当するところは IEC/ISO/JIS などでは「技法 (technique)」を用いており、今後用法について整理していく。
- －標準の前書きである「標準の利用について」において「仕様について、規定している以外のものを排除するものではありません。」との記述があるが、性能規定とした場合にこの記述が適切か、標準委員会の定型句であることも踏まえて検討していく。
- －「その適用性が説明できる場合には、これ以外の方法を用いてもよい。」との趣旨が全般に存在するが、性能規定としては「これ以外の方法 (技法) を用いる場合には適用の妥当性を示す。」との規定振りとする。

##### ・箇条 6 プラント状態 (POS) の分類及び設定

- －POS の分類において、共通用語の定義のとおり運転時も一つの POS として扱うことを確認した。これによりその旨を解説に記載する。
- －6.2.3 項での「欠落することはないか」との表現について、規定振りとして適切か検討する。

##### ・箇条 7 起因事象の選定及び発生頻度の推定

- －起因事象の重畳についての要否検討が提起されていたが、内の事象において必要な具体例があるか確認していき、その結果により扱いを検討する。
- －7.2.1.1 項において、既往の PRA による起因事象を適用できる規定振りとなっているが、これらの情報は起因事象選定の参考として用いており、直接の適用はないことから、規定のあり方について見直す。

ー7.2.2.3 項のグループの代表事象の選定は，グループ化と同義となり ASME/ANS 標準からも既に削除されていることから，項目自体の扱いについて今後も検討していく。

(6) スケジュール，その他

次回分科会は 6 月 18 日 PM での予定とする。

以 上